

日本洋書協会会報

Vol. 34 No. 12 (通巻403号) 2000年12月

理事会報告

11月20日(月)

1. 以下の委員会報告を了承した。
 - ・10月中の協会ホームページへのアクセス数は677回、内会員ページへのアクセスは24回であった。パスワードの付与及び使用方法を工夫する必要があると思われる。また URL の一層の広報を要する。
(ダイレクター委員会)
 - ・今年度活動の反省会と次年度活動計画の検討会を12月12日に行う。
(広報渉外委員会)
 - ・表紙記事を含めて会報の編集・デザインの一新を図る。特に会員向けニュース欄をウェブサイトとも連動して充実させたい。関連団体誌などからの転載も考えている。
(会報委員会)
 - ・恒例の新年賀詞交換会の準備に入る。
(文化厚生委員会)
2. 新規会員の勧誘に当たり、現会員にも再度協力方を要請する。
3. 東京国際ブックフェア「イタリア年」委員会の準備会議を11月16日に行った。イタリア側の構想に不明確な点が多いので、日本側の考えをおおよそ固めてイタリア側に提案することとした。12月4日に全体会議を開き、具体案を策定する。
(事務局)
4. 2001年新年賀詞交換会への書籍関連団体代表の招待は緒般の事情により中止する。

5. 金原理事の以下の報告を了承した。
 - ・出版物に対する総額表示方式(税込み価格表示)の導入見なおし、消費税の免税または軽減および再販制度の維持を出版関連四団体名で各党に要望する。
 - ・日本複写権センターと米国 CCC との契約成立の見込みはなくなった。文献コピーはビジネスとして既に成立しており、ある業者は雑誌文献を30万件(うち海外文献約50%)を単価20円/頁程度で複写、販売している。学情協一CCC間では単価50円/頁で合意済みである。
6. 外資系業者の消費税問題と日本市場における販売戦略、著作権保護などの重要課題について専門委員会を設置するなど、真剣に取り組む必要がある。
7. 2001年度定時総会を5月16日(水)に都内で開催する。役員改選および委員会再編を行う。

委員会報告 <広報・渉外委員会>

12月12日(火)

本年最後の委員会を帝国ホテル・政経同志会サロンにて開催しました。委員会メンバー10名に事務局長が加わり、最初に委員長より今期12月までの委員会諸活動について報告とコメントがありました。続いて委員各位より諸活動の反省、改善点、意見が出され、最後に担当理事より協会の理念と当委員会の役割や意義について発言が

目次

理事会・委員会報告……………1・2	日本語を見直し、英語の	2001年度主要国際書籍展一覧…………7
新・パソコン外論考(其11)……………3	習得に活用しよう……………4・5	広 告……………8
	出版文化史逍遥(5)……………6	

あり、閉会しました。

引き続き、同会場において当委員会とダイレクター委員会の合同懇親会を催しました。この席には、今年の当委員会活動にご協力いただいた出版文化国際交流会の専務理事、是永保子氏をお招きし、参加者総勢18名で協会の発展を願い、懇親を図りました。

(委員会・清水弘文記)

委員会報告

<文化厚生委員会>

釣り同好会 あじ釣り大会

2000・11・18(土)

いろいろ行われる協会行事のなかで、太公望にとって一番の楽しみのひとつ釣り大会が11月18日(土)に三浦半島の剣崎で開催されました。前日までは小雨や曇りの日が続き、天候が心配されましたが天気予報は一応晴れとの事、少し安心。大会当日、予報通り秋晴れの釣り日和。7時すぎには参加者13名全員集合。今回のターゲットはアジ。釣り船は前回と同じく「一義丸」。船長も同じ二代目を指名。7時30分の出船までの間、各自思い思いに仕掛を準備、そして出船。約30分程で釣り場に到着。いつものように船長からは「どうぞ」の掛け声で一斉に糸を垂らしはじめます。ここでは「大アジ」を狙ったのですが1時間位やっても誰も釣れず、別の場所へ移動との事。少し不安を感じながら30分程で次の釣り場に到着。ここからが大変。糸を垂らした直後、全員にすぐ反応があり、入り食い状態。釣れる釣れる。なんと3時の終了までに13名で397匹(サバも多数)という、これまでにない記録的な釣果でした。前回は上回る成果に全員大満足の笑顔に包まれながらの解散となりました。

成績は以下のとおりです。

優勝	中村(大洋交易)	51匹
2位	石川(OB)	42匹
3位	広瀬(大洋交易)	40匹
4位	鶴(東亜ブック)	35匹
5位	下山(太陽図書貿易)	32匹

(大洋交易・塚本記)

第99回72会ゴルフコンペ

高根カントリークラブ

2000・12・7(木)

久しぶりに好天気が続いた12月上旬、風は少し強かったけど、晴れていて暖かはずまずのゴルフ日和でした。紅葉もそろそろ終わり、枯葉も舞始めた武蔵野、林に囲まれた美しい丘陵コースは鶴さん(東亜ブック)のホームコース高根カントリークラブ。4組15名の参加で熱戦が繰り広げられました。

優勝は若くて力のある楠本さん(タトル商会)。「ドラゴン、ニアピンも獲れて嬉しい、来年も頑張りたい」とのコメント、見事でした。宅配のゴルフクラブは少し遅れたけれど、「良くて1位、悪くても2位を目指した」との森田さん(東亜ブック)が2位に入賞されました。「夏に病気しました、ゴルフを一生懸命、クラブを変え、鶴さんに勝ちたかった」との斎田さん(三善)が3位入賞、ベストグロス賞も獲得され、立派でした。同じ組で廻らして貰った中林さん(日本出版貿易)と鶴さん(東亜ブック)のユーモアあり、時には毒舌ありの楽しい会話に感心し、耳を傾けながら、そして、同組の楠本さんの優勝と本当に楽しい一日を過ごさせて戴きました。お陰さまで西山は栄えある(?)ブービー賞も戴き有り難う御座いました。そして、いよいよ次回は100回記念大会。平成13年3月17日(土)、狭山ゴルフクラブにて開催の予定です。多数のご参加をお待ちしています。

	成績表	G	H	NET
優勝	橋本 忍(タトル商会)	105	28	80
2位	森田 要(東亜ブック)	94	12	82
3位	斎田利幸(三善)	87	4	83
4位	鶴 三郎(東亜ブック)	93	7	86
5位	内田淳一(東亜ブック)	115	28	87
ベストグロス	斎田利幸(三善)	87		

ドラコン 戒井忍治(丸善) 橋本 忍(タトル商会)
森田淳一(東亜ブック) 中林三十三(日本出版貿易)
ニアピン 内田淳一(東亜ブック) 鶴三郎(東亜ブック)
橋本 忍(タトル商会) 石渡昇(阪神エアーカーゴ)

(西山洋書 西山記)

新・パソコン外論考 (其11)

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

◆These foolish things remind me of you./あなたを思い出させるつまらないことの数々。

葉公問政、子曰、近者説、遠者来、

The governor of She asked about government.

The Master said, 'Ensure that those who are near are pleased and those who are far away are attracted.'

(論語/子路・Confucius; The Analects/Book XIII)

【超拙意訳；葉県の長官が『まつりごと』のポイントを孔子に尋ねました。先生は言われた。「近くに居る者が説(よろこ)ぶようにすれば、遠き者も慕い来ますよ」

【自註；葉公=楚の重臣、沈諸梁。葉県の長官。述目編にも登場。拙稿2000年5月号参照】

★パソコン英語余談

Crusoe(先号で紹介)の後日談。10月の中下旬から発売されたこの新手のCPU搭載の某社製ノートパソコンの不具合が見つかったのです。「○×時間ノンストップモバイル」と喧伝文句をつけて売られているものです(現在進行形)。頭脳部門担当のTransmeta社CPUが、正常動作をせずとのこと。不良部品の無償交換に応じるとの記事(12/1/00)朝日新聞)。

うーん。新マシンやOSのup-version等々の際にも、くどいほど申し上げていました「ちょっと待て、あせる気持ちがスカを掴む」「新しいものは3月待て」というパソコン界の「格言」を思い出してください。もっとも、現在のパソコン界では、3月経ちますと、マシンのCPUその他ハード面は、がらりと変わり、「速い・安い」という牛丼屋的なキャッチコピーの通りになります。で、ニューマシンを購入する「タイミング」は、プロほど難しいのです。3月待てば、CPUの値段、処理スピードの向上、絶対的な価格下落が読めていますし、specification等々もある程度の目安がついています。そこで、買い換え(現在はこの言葉も、死語です。現在のマシンを下取りの売却しようとしても二束三文、この言葉もフルイ、にもなりませんので)といいますが、ニューマシンを購入する際には、ある程度の見切発車的に、「えい」と清水の舞台から飛び降りないといけません。

で、大体「ちえっ!」ということばが1月経たないう

ちに口からでるわけです。なんだよ、もう1.5GHzのものがこんな値段で出るの、もうあと3月ぐらいかと思っていたのに……、ってなくあいです(もう最先端のニューマシンが1周遅れのランナーになって、売れない)。

そこにいきますと、アマの方は簡単です。何よりも欲しいという欲望が先ですから。

そこで、パソコン歴23年のプロ、畏友が自家製メインマシン(4年前に50万円を注ぎ込んだもの)のCPU、IntelのDX2/66MHz、のInternetの際のレスポンスのあまりの悪さに、業をにやして、舞台から飛び下りてしまったとの報告がありました。

CPUは、Pentium3/933MHz、Intel815Echipset、128MBのRAM、17"monitor付、40GB/HDD(Ultra ATA/66)、DVD、CD-RW、56kBPSモデム、GeForce 256/32MBAGPのVideoカード等々で、ズバリ17万円だったそうです。まあ、中級モデルマシン。ハイスペックだと、25万前後ですから……。

「これで、2001年と2年は大丈夫だろうね?」

「CPUは、2001年半ばで1.5ないしは2GHzまでいくだろうから、なんとも……。まあ、前のと比べると雲泥の差なんだから上を見ない。舞台から飛んだんだから」

★Internet関係のパソコン英語**** (7)

e-mailそのものに関して少し取り上げてみたいと思います。e-mailのルール(マナー)は、「文章は簡潔」、これにつきます。要は、事項の挨拶抜きでなるべく1用件のみにすること。テキストファイルのみで送ること。添付ファイルは送らない、貰わない、開かない(これが、ウイルスから身を守る最大の作戦)。また、不必要に「履歴付の返信」を繰り返さないこと(これを何回かやりますと、本当に腹が立ってきますので)。そして、文末に「自分の連絡先」を付けておくこと。名前・肩書・電話・FAX・e-mailアドレスといった具合です。

で、subject; 件名含まれて使われるものに以下のようなものがあります。

【Re】=reply=返信の意味です。

【Fw】=forward=転送の意味です。私信をむやみやたら他人に転送する輩が結構いるのです。本当に困った…。

【Cc】=carbon copy=複製コピー。タイプライター時代の名残の言葉。これは、宛名以外の人にも参考として送付する際に使用。Cc:あなたの名前、てな具合。

【Bcc】=blind carbon copy=隠した写し。この【Bcc】の受信者以外はブラインド。実例は次号(乞御期待)

日本語を見直し、英語の習得に活用しよう

島岡 丘

英語に接したり使ったりする機会が多くなった。それに伴って英語の学習も盛んである。英会話スクールの宣伝も多い。学校の教育制度では、中学から高校までの年齢層の9割9分までが英語を学習しているが、英語の学習が学校教育の一教科だけの問題でなく、英語を駆使できなければ英語圏との経済交流が出来にくくなるという危機感も広く経済界にある。そのような状況を反映して、2002年からは英語の学習が必修となり、中学生は100%が英語の学習をすることになる。さらに小学校からも英語教育が全国的に始まろうとしている。

筆者の関係している月例研究会でいろいろな分野で活躍されている専門家をお招きして講演してもらおうということをして20数年間続けているが、今月お招きした心理学専門の講師から、「外国語を学ぶ前に思想がなければならぬ」というご発言にハットした。

これまで、AからZまでのアルファベット文字をその存在理由を考えないで、ただ存在するから、学んだいたのではないかと思った。大多数の日本人にとっては、英語学習の目標は、英語の読解とか英語を駆使できればいいのであるが、英語教育や英語学研究にとって英語学習の思想というのは、正直言って、筆者自身はあまり考えていなかった。しかし、やはり母語と異なることばの学習にはそれなりの思想がなければならないと思う。

たまたま英国大使館で多くの英語母語話者と接する機会があったので、英語のアルファベットはどのような思想の基にAからZまで並んでいるのかと数人のイギリス人に尋ねてみたところ、誰も満足に答えられる人は誰もいなかった。ロスの友達にもこのことを尋ねたら、It's God-given. (それは神から与えられたものだ) という答えが返ってきた。アルファベットは長年の試行錯誤で自然と出来上がったと見るのが妥当であろうが、英語のアルファベットに対する知的アプローチというものが考えられないだろうか。

英語はインドーヨーロッパ語族に属し、根元まで遡ると地理的には、インド北部のコーカサス地方あたりにたどり着くことになる。人類史的に見ると、現代の英語はインドからアラブ、ギリシア、ラテン、バイキングなど言語地域との長い間、接触と相互作用を繰り返してよう

やくイギリスとアメリカに到達して結実したと言える。

グローバル化の時代を迎え、英語はハワイを通過し、日本語と接触することになった。日本語との相互作用からどのようなものが生まれたのであろうか。言語の発達の起点をインドと仮定すると、地球の西回りをしてきた英語と東回りをしてきた日本語と遭遇することになったわけで、両言語の相互作用は何らかの形で生まれるであろうし、日本語と英語とを比較することは、極めて興味深いことである。日本語の比較は対照言語研究として、大学や大学院のカリキュラムにもあるが、日本語話者が英語を学習する上でどのような困難点があるかを予測し、それに対する処方箋という形で行われてきたが、必ずしも予測通りにならないということもあって、あまり研究が行われなくなった。しかし、これまでと別の角度から検討することも必要であろう。

日本語はインドのサンスクリット文法学者が考えたアイウエオを日本語の音声体系の記述に採用している。それには、はっきりとした思想が読みとれる。すなわち、言語は3を基準にして出来上がっているということになる。短的に言えば、どの言語を発音にしても口の開きは広いか狭いか中間かであり、舌の位置は前か後ろか中寄りかである。筆者はこれを3・3四角形という枠組みを設定し、普遍的言語の枠組みとした(筆者の学位論文『中間言語の音声学—英語の「近似カナ表記システムの確立と活用」(小学館プロダクション、2001³)。)

3・3四角形の枠組みを当てはめると、アイウエオの思想がはっきりする。つまり、まず口を大きく開いて、声を出せば「ア」が出る。それと反対に口を狭めて声を出すと、前舌の付近で「イ」になり、奥舌の付近で「ウ」になる(細かな違いは省略)。これは日本語だけでなく、どの言語も最低これらの3つの母音が存在する。また口を半開きにして言えば、前舌で「エ」になり、奥舌で「オ」になる。英語では、日本語の「ア」に匹敵する母音は、「アイ」と「アウ」の出だしその位置で発音され、さらに口の前方で「エア」のように、口の後方で「ォ」に近い「アー」と発音する言語を含めると前後3箇所、高低3箇所、計9箇所の発音位置、つまり、3・3四角形を設けなければならない。

しかし、今世紀始めに、ジョウンズなどによって、母音の記述の枠組みが3・3四角形から逆梯形の形に変更された。その理由は、レントゲンのX線の発明によって、舌の位置を正確に観察出来るようになったというのが有

力な説のようだ。舌はレントゲンには写らないが、舌の上に細長い鎖を置いたり、あるいは舌の表面に特定の液体を塗ることで、舌の位置が外部から観察可能になる。だが、物理的正確さを優先させるべきなのか、それとも認知的に母音相互の対立関係概念を優先させるべきなのかという問題が残る。ジョウズズの英語音声学のテキストの冒頭には、No two people speak exactly alike. (全く同じように発音する人は2人としていない)と書かれており、また、同じ人でも第1回目の発話と第2回目の発話と全く同じということはありません。この理由で、対立概念を優勢に考えざるを得ない。

20世紀の後半までは、英語の学習者や指導者は、3・3四角形のような共通の枠組みを設けることなく、日本語をむしろ忘れるようにしてアルファベットから学習をした。その結果、日本語も英語も音声体系が分からず、ひたすら英語の新語句をあたかも新しい漢字を一つ一つ学習するように非能率的な学習を続けてきたのではないだろうか。

21世紀の英語学習はこれまでの「母語さようなら、英語こんにちは」という方式と異なる道を探すべきである。現代英語は太平洋を越えて日本にいろいろな形でやって来ている。日本の大部分の学習形態は、まずアルファベットから文字を覚え、発音記号の手がかりも使わずに、英語のモデルを聞きながら繰り返すいわゆる Listen-Repeat モデルが大多数を占めている。

日本語は、ア、イ、ウ、エ、オをそれぞれ、低一中寄り、高一前、高一奥、中一前、中一奥という安定した舌の位置で発音するという安定した母音をもつ言語であることは周知の事実であるが、さらに付け加えると、ア、イ、ウ、エ、オを長く言っても、強く言っても、また弱く言っても母音の質が変化しない言語である。母音のことを英語では vowel (<Lat. vocalis (声の意)) というが、日本語の「母音」の名称の方が、適切なものかもしれない。

それに対して、英語はどうであろう。英語の母音は長短で舌の位置が変わる。また、長母音は「エー」や「オー」のように同一音が長くならず、「エイ」とか「オゥ」のように出だしが強く終わりが弱くなりいわゆる二重母音化する。ただし、スコットランドの英語方言では音質の変わらない長母音が用いられる。さらに英語では強弱でも質が変わってしまうのである。別の言い方をすれば、強弱をつけないと英語として通じないのである。

英語の音声学者が学習しやすくするために、音の質的变化が捉えられるような発音記号体系を考案し、現在は発音辞典として、広く学習者が使う英和辞典に使われている。しかし、発音記号を覚えてそれを英語教育の活用することは希で、5000人の規模で日本に来る英語指導助手 (ALT) は発音記号を全く知らないことが多く、文字列の不規則性についてはあまり強い意識をもっていない。

筆者が中学の時、終戦で英語の先生が不足したのにかかわらず、6-3制が実施され、英語の授業の休講が半年以上も続いた。その結果、英語の教科書を開いても全く読めず、自学自習は出来ない状態になった。その時、カタカナでも発音の手がかりに使えるとどんなによいだろうと思った。現在は教える資格をもった英語の先生がおられるので、それほど問題は深刻ではなさそうである。

大学生にテキストを音読させると、不規則な英語の綴り字に悩まされ続けているが分かる。発音記号を使えば綴り字の不規則性に悩まされることがなくなるのであるが、中学・高校時代に発音記号を教わってきた学生が少なく発音記号を活用していない学生が大部分である。

日本の戦後は謝り外交を続けてきたが、マハティール首相は元村山首相の謝り外交に対して、日本は過去のことにとらわれず、アジアでもっとリーダーシップを発揮するように言われたそうであるが、それがきっかけの一つとなってようやく日本が自信を回復し始めたのではないと思われる。その結果、これまでは英語を能率的に習得するための日英語の比較であったが、日本語と英語を3・3四角形という共通の枠組みで対等比較をする方向に進むようになっている。

旅をするにしても鳥瞰図のようなものがあると、安心である。アルファベットから英語を覚えようとするとしても文字の学習になって発音と文字とのずれが生じやすい。入門書に A in apple などがあるが、それは呼び名音と基本音を同時に示したもので、A in name (game, ace, race, ...) のように先に示すほうが覚えやすい。

英語を習得する際、アイウエオを基準とした世界共通の3・3四角形を基にして、母音の音声特徴をどのように変化させれば英語を身につけることが出来るかを考えていくのがよいというのが筆者の提言である。

(茨城キリスト教大学教授)

洋書の歴史雑記帳〔VI〕 吉利支丹と洋書(6)

鈴木 陽二

◆南蛮地図(1) 西洋の地図に現れた日本

西洋の地図に日本が初めて現れたのは、1459年にイタリア人フラ・マウロにより作成された手書きの世界図で、同図に“*Ixola de Cimpagu*”という地名で掲載されている。しかしそれ以前に、シチリアのノルマン王ロジェールに仕えたアラブ系の地理学者アル・イドリースーが王に献上した『ロジェールの書』(1154)の世界地図に描かれた「ワクワク」“*Wak Wak*”は、「倭国」から転訛した呼称であろうと解釈されているので、その説に立つと、これが日本の載った最初の世界地図ということになる。イランの地理学者イアン・フルダーズビフは844~848年に著した『諸道路と諸国の記』に、朝鮮(Sila)の東に位置する地ワク・ワク(Waqwaq)では黄金と黒檀を産すると記述しているが(長澤和敏『海のシルクロード史』)、この地名特定について学会で大論争があり、東洋史学者桑原隲蔵の研究(『蒲寿炭の事蹟』など)が重要視されてワク・ワクは「倭国」をさすということで決着したという。これで見ると、日本はマルコ・ポーロがジバングをヨーロッパに紹介する(1228)ずっと以前から、伝聞されていたことが分かる。

ともあれ、15世紀から16世紀中頃までにヨーロッパで製作された地図や地球儀に描かれている日本図は、いずれもマルコ・ポーロの『東方見聞録』から生まれた幻像のジバング図であった。日本の実在が西洋人に認知されるようになったのは、ポルトガルがマラッカを占領して中国人などから情報を得られるようになってからで、ポルトガルの最初の中国派遣使節トメ・ピレスによって『東方諸国記』が著された1515年頃からである。またこの書は、日本を「ジバング」から“*Jampon*”、つまりジャパンという呼称を初めて使用した文献であり、ピレスはこの地名をマライ語の“*Japun*”“*Japang*”からとったものだという(岸野久『西洋人の日本発見』)。

ところで、日本で地図が製作された文献上の最古の記録は、646年(大化2年)にさかのぼる。その年、口分田班給のための基礎史料としての田籍・田図と、地方統治の必要性から国郡図の作成を命ずる詔勅が発せられた。また、聖武天皇の時代には僧行基によって全国図が作成

されたとしてそれを「行基図」と呼んでいるが、しかし行基が地図を作ったという記録はないようで、全国を行脚して土木事業を行い人民を済度した「行基菩薩」の伝説と結び付いた伝承であろうと解釈されている。この行基図は来日したポルトガル人によってヨーロッパに持ち帰られ、日本図の作成に参照されることになった。

1543年のポルトガル船の種子島来航以降、ポルトガルの貿易商やキリシタン宣教師の来航が盛んになり、ごく限られた範囲ではあったが、日本を実見、あるいは風聞した報告が送られ、また行基図も伝わって、それらの知識が地図に反映されるようになった。ポルトラノ型と呼ばれる海図は13世紀ごろに起源をもつというが、大航海時代には海洋航行のため盛んに作られた。その世界図に描かれた日本図の諸系統の中で1554年オーメン型(準半島型)1570年のオルテリウス型(楕円型)、1568年のドゥラード型(本州南湾型)が行基図を参照した痕跡があるという。岡本良知先生によれば、明らかに行基図を使って作成した初めての地図は、ポルトガル人ローボ・オーメンの世界地図で、行基図は遅くとも1547~1548年頃までにはヨーロッパに伝えられていたであろうと述べている(『十六世紀における日本地図の発達』)。

ポルトラノ型海図は外洋航海の上で欠かせないもので、ほとんどが羊皮紙などに手書きしたものであった。室町時代後期から鎖国に至るまで、日本人も朱印船や倭寇など海洋へ盛んに勇飛したが、彼らも原図を手に入れたり、あるいは和紙に模写した図を使用した。現在日本に20点ほどのポルトラノ型海図が残存しており、その中には、朱印船貿易商として名をはせた角倉家や末吉家が使用したヨーロッパ製原図も幾つか見られるという。

行基図が海外に出た数は少なくなかったと見られているが、ヨーロッパに現存しているのは、フィレンツェ国立文書館にある天正遣欧使節が持参したと推定されるポルトガル語訳の図と、日本人キリシタンが描いた図でマドリード国立史料館が所蔵するものと2種類だけであるという。〔参照文献：海野一隆『地図に見る日本』/織田武雄『古地図の博物誌』/同『地図の歴史』/宮崎正勝『ジバング伝説』(元丸善・本の図書館長)

2001 年度主要国際書籍展一覽

書籍展名	開催期日	開催地	e-mail	Website
EXPOLANGUES	1/31- 2/ 4	Paris	infor@reed-oip. fr	www. reed-oip. fr
Milia	2/11- 2/14	Cannes	info@milia. com	www. milia. com
Taipei Intern'l Book Exhibition	2/ 1- 2/ 6	Taipei	info@tibe. com	www. tibe. com
Salon du Livre Paris	3/16- 3/18	Paris	livre@reed-oip. fr	www. salondulivreparis. com
AAS (Ass. for Asian Studies)	3/22- 3/25	Chicago	jwilson@aasianst. org	www. aasianst. org
Leipzig Book Fair	3/22- 3/25	Leipzig	info@leipziger messe. de	Fax 341 6788242
London Intern'l Book Fair	3/25- 3/27	London	ioanne. veale@reedexpo. co. uk	www. lbf virtual. com
Bologna Children's Book Fair	4/ 4- 4/ 7	Bologna	dir. com.@bolognafiere. it	www. bolognafiere. it. bookfair
Tokyo International Book Fair	4/19- 4/22	Tokyo	tibt@reedexpo. co. jp	www. reedexpo. co.jp
Asia International Book Fair	4/25- 4/27	Singapore	sp@reedexpo. com. sg	www. aibf. com.
Warsaw International Book Fair	5/16- 5/20	Warsaw	arspol@arspolona. com. pl	www. arspolona. com. pl
Book Expo America	5/30- 6/ 3	Chicago	inquiry@bookexpo. reedexpo. com	www. bookexpoamerica. com
Seoul International Book Fair	6/ 1- 6/ 6	Seoul	kpa@kpa21. or. kr	www. sibf. co. kr
Special Libraly Ass. Book Exhibit	6/10- 6/13	San Antonio	slal@capcon. net	www. sla. org
American Lib. Ass. Book Exhibit	6/14- 6/20	San Francisco	ala@ala. org	www. ala. org
Australian Book Fair	6/20- 6/22	Sydney	info@expertiseevents. com. au	www. bookfair. com. au
Hong Kong Book Fair	7/18- 7/23	Hong Kong	hktdc@tdc. org. hk	www. hkbookfair. com
Beijing Intern'l Book Fair	8/30- 9/ 4	Beijing	cnpiec@public3. bta. net. cn	
Moscow Intern'l Book Fair	9/ 5- 9/10	Moscow		Fax 095 973 2132
Liber/Intern'l Book Fair Spain	10/17-10/21	Madrid	editores@fge. es	www. editoresdeespana. org
Frankfurt Book Fair	10/10-10/14	Frankfurt	marketing@book-fair.com	www. frankfurt-book-fair.com
Salon du Livre Montreal	11/15-11/19	Montreal	slm.info@videotron. ca	www. slm. qc. ca
CIROBE 2001	11/ 2-11/ 4	Chicago	info@cirobe. com	www. cirobe. com

よいお年をお迎えください

準初級～中級向け

フランス語 新刊ビデオ

Trois minutes,

s'il vous plaît!

コミカル ミニスケッチ
3分間でフランス語

Une méthode vidéo originale, pleine d'humour, jeune, amusante et divertissante, basée sur de petites scènes pleines de vie, comportant des dialogues vivantes, dans "l'air du temps"



フランス人の
さまざまな日常生活の場面を
それぞれ3分間のユーモラスな
スケッチ(10話)にまとめたビデオ。



シリーズ①(1～10話)

ビデオパック:ビデオ1巻(学生用テキスト付)・・・ ¥18,000
学生用テキスト・・・¥1,800 / カセット・・・¥2,200

- 文法的には複合過去まで、表現も簡単!
- テキスト(シリーズ①)のダイアログのスク립トには豊富な注が付き、1年生前期終了程度のレベルから十分使えます。
- それぞれのエピソードが短いため、繰り返し学生に見せられます。
- 流行語も交えた、自然なフランス語の会話によって、聞き取りの力が飛躍的にアップ!
- テキスト(シリーズ①)の練習問題は、仏検4級から3級に対応。
(Voir la page 36.)



同時発売!

シリーズ②(11～20話)

ビデオパック ¥18,000
(ビデオ1巻+ビデオスク립ト)

* サンプルビデオ、テキスト採用見本については、下記までお申し付け下さい。
Pour la vidéo de démo et le spécimen, veuillez contactez Shinko Tsusho.

伸 興 通 商 (株) / SHINKO TSUSHO CO., LTD.

160-0011 東京都新宿区若葉1-7-1 Tel 03-3353-1751 / Fax 03-3353-2205

2000年12月 通巻第403号 日本洋書協会 編集者 高橋 紘
〒103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920
URL:http://www.jaip.gr.jp E-mail:jaip@maruzen.ne.jp

印刷所=藤本綜合印刷株式会社